男性介護者支援全国ネット山陰ブロック交流会・ＡＤＩ第 32 回国際会議 2017 in 京都プレイベント
2016 年世界アルツハイマー月間記念事業・2016 年度鳥取県補助事業

# ケアメンサミット in とっとり
# 介護退職ゼロ作戦フォーラム・米子

超高齢化と家族構成の変化に伴い、介護者も男性介護者、親を介護する子ども介護者が増えて来ており、介護による離職や退職を余儀なくされることも多くなってきています。また、介護の孤立化により、介護者による要介護者の死亡事件も県内で起こっています。
私たちは、「しない！させない！介護退職！」を合言葉に、認知症など障がいがあっても、介護しても、退職しない、孤立しない、不幸にならない社会のあり方について山陰の地、鳥取県から発信します。

2016年
**9月4日（日）** 入場無料

一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との 10 年間に及ぶ“いのち”を巡る物語。認知症への正しい理解、仕事、介護、夫婦について考える。

**映画** 「妻の病～レビー小体型認知症～」
2014 年伊勢真一監督作品 ヒューマンドキュメンタリー
第1回上映 9:30▶11:00 第2回上映 11:15▶12:45（定員200名）

**会場** ガイナックスシアター ホールAnn（米子駅前イオン3F）

**フォーラム** 介護退職ゼロ作戦フォーラム 13:15▶16:15（定員300名）

**会場** 米子コンベンションセンター BiG SHiP（国際会議室）

第一部　鳥取県と島根県の本人・介護者支援の活動

第二部　講演　**樋口 恵子** 氏
（高齢社会をよくする女性の会理事長）

樋口恵子 氏

「超高齢化社会を迎えて
～ワーク・ライフ・ケアバランスをめざして～」

第三部　リレートーク
（介護者の発表・全国各地の男性介護者等）

津止正敏 氏

コーディネーター　**津止 正敏** 氏
（立命館大学教授・男性介護者支援全国ネット事務局長）

**～展示・体験コーナー**

あなたの「今までの認知症観」をぶっ飛ばす！

- 認知症の正しい理解パネル展示（クイズもあるよ）
- 認知症の人や介護家族の作品展（作品募集中！）
- 認知症予防の体験・紹介

◆参加申込方法：下記申込欄に記入の上、FAXにてお申し込みください。
申込締切 8月25日（木）　※定員になり次第締め切ります。

◆主催：ケアメンサミット in とっとり 介護退職ゼロ作戦フォーラム・米子実行委員会
◆共催：男性介護者と支援者の全国ネットワーク・公益財団法人キリン福祉財団・鳥取県
◆後援：厚生労働省、米子市、鳥取県社会福祉協議会、米子市社会福祉協議会、境港市社会福祉協議会

問い合わせ　認知症の人と家族の会鳥取県支部・男性介護者ネットワーク鳥取県
〒683-0811 鳥取県米子市錦町 2-235　☎ 0859-37-6611　FAX 0859-30-2980

●ケアメンサミット申込書 FAX 0859-30-2980（認知症の人と家族の会鳥取県支部）

| 氏　名 | 住　所 | 連絡先電話番号 | 参加するものに○印 |
|---|---|---|---|
| | 〒　－ | | ・映画（1回・2回・どちらでも）<br>・フォーラム |
| | 〒　－ | | ・映画（1回・2回・どちらでも）<br>・フォーラム |

## ライフ イズ ライク アドリーム

「まるで夢のようだね…」
認知症の日々を生きる妻に、夫が語りかける。二人はうなずき合う。この映画は、認知症のドキュメンタリーというよりも、病を経て絆を深める、ある夫婦の愛の物語である。

2011年3月11日。東日本大震災のその日、私はひとりの友人の話を聞くために、高知県南国市にいた。友人の名は石本浩市（62才）、ふるさとのその地で小児科を開業する医師である。十数年前、小児がんの子どもたちのキャンプで出逢い、10年がかりで『風のかたち』という映画を製作した仲間だ。その日、石本さんが語ったのは、小児がんの話ではなかった。
――レビー小体型認知症。それが、彼の妻の病名だった。

妻・石本弥生さんは、石本さんとは幼なじみ。50代から若年性の認知症となり、10年間、石本夫妻は病との斗いに明け暮れて来た。小児がん治療と地域医療の取り組み、妻・弥生さんの認知症との格闘、決してキレイゴトでは片付けられない日々…。石本さんは、医師ならではの観察眼で、弥生さんの発症以来の日常を、まるでカルテを書くように、こと細かに記録していた。

認知症が進行し、今では身の回りのことがほとんど何も出来なくなった弥生さん…。
その弥生さんに深い愛情を寄せケアする石本さん、家族、親戚、地域の人々。
映画「妻の病 -レビー小体型認知症-」は、四国・南国市の豊かな自然に育まれ、支えあうように生きて来た一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との、10年間に及ぶ"いのち"を巡る物語である。

「生きなきゃ…　ふたりで よう頑張ったと思う。」
「うん、生きなきゃ。」

（演出・伊勢真一）

**伊勢 真一**（いせ しんいち）
ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。「奈緒ちゃん」「えんとこ」をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手がけている。「風のかたち」文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞、「大丈夫。」キネマ旬報文化映画第1位、「傍（かたわら）」キネマ旬報文化映画第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ夢倶楽部賞受賞。

**石本 浩市**（いしもと こういち）小児科医
1951年高知県南国市生まれ。順天堂大学医学部卒業、小児科医となる。小児がん医療に取り組み、最前線で活躍。2001年に故郷・南国市へ戻り「あけぼの小児クリニック」を開業、地域医療に取り組む。10年間に及ぶ妻・弥生さんの病との日々を生きてきた。

**石本 弥生**（いしもと やよい）石本さんの妻
石本浩市さんとは幼なじみ。2004年に統合失調症と診断される。その3年後、若年性のレビー小体型認知症であることが判明、現在に至る。

出　演 ―― 石本浩市　石本弥生　石川真理
題　字 ―― 細谷亮太
撮　影 ―― 石倉隆二
音　響 ―― 米山靖
録　音 ―― 渡辺丈彦
編集技術 ―― 尾尻弘一
バンドネオン ―― 大久保かおり
コントラバス ―― カイドーユタカ
音楽協力 ―― 横内丙午
宣伝デザイン ―― 森岡寛貴（ジオングラフィック）
制作・上映デスク ―― 遠藤郁美
鷲見真弓
増馬則子
製作協力 ―― ヒポコミュニケーションズ
一隅社
ハチプロダクション
企画・製作 ―― いせフィルム
演　出 ―― 伊勢真一

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

――愛する人が認知症になったとき、一体何が大切なのか。
誰の上にも起きる可能性がある認知症という病。
愛する人が認知症になったとき、
あるいは自分が認知症になったとき、一体何が大切なのか…。
この映画は、一人ひとりに深い問いを投げかけています。

【レビー小体型認知症】
アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症とともに、"三大認知症"といわれている。パーキンソン症状と幻視・幻聴体験、そして認知症独特の記憶障害がみられる疾患。「レビー小体」とよばれる異常物質が脳組織に沈着する。症状には波があり、鬱（うつ）症状もみられるため、同居する家族の精神的負担も大きい。

■2014年 伊勢真一監督作品 ヒューマンドキュメンタリー

# 映画　「妻の病～レビー小体型認知症～」

◇上映日時 9月4日（日）　第1回上映　9：30～11：00　100名
　　第2回上映　11：15～12：45　100名

◇会　　場 米子市 ガイナックスシアター ホール Ann（米子駅前イオン3F）

◇鑑賞申込 表面下段の●ケアメンサミット申込書へご記入の上、FAXにて下記へお申し込みください。先着順で各回定員100名（合計200名）になり次第締め切ります。

◇申 込 先 認知症の人と家族の会鳥取県支部・男性介護者ネットワーク鳥取県
〒683-0811　米子市錦町2-235　電話（0859）37-6611　FAX（0859）30-2980